

令和8年度 授業時数の弾力的な運用に関する研究計画と 取り組みについて

1. 研究計画

- ・研修観の転換し、職員が主体的に学ぶ研修を行う。自己研鑽の時間を通して、専門性の向上と組織的な学びを進め、子ども一人ひとりに寄り添った指導の充実を図る。
- ・教員の専門性の向上をベースに、40分授業を基盤として教育課程を再編成し、「できる」「つながる」「追究する」学びを充実させる。

もっと追究タイム【探究】

教科と総合的な学習の時間を関連付け、問いを基に探究する学習を推進する。

【目指す姿】 自ら課題を見だし、主体的に探究する児童

アップデートタイム【教師の学び】

【目指す教職員の姿】

- ・授業改善に向けた協議や教材研究、児童理解に関する情報共有を行うとともに、メンター・メンティーによる対話的な研修を通して、教職員の専門性向上と組織的な学びを推進する。

もっとできるタイム【基礎・基本】

読み・書き・計算を中心とした反復学習や個別最適な学習を行い、基礎学力の定着と学習習慣の形成を図る。

【目指す姿】 「分かる・できる」実感をもち、自ら学習に取り組む児童

もっとつながりタイム【交流】

縦割り活動や異学年交流を通して、多様な考えに触れながら協働する力を育成する。

【目指す姿】 互いを認め合い、学び合う児童

2. 取り組みの具体

アップデートタイム	教員自身が主体的に学ぶ研修への転換：5分短縮ではなく、単元全体のリデザインと徹底した時間の効率化の取り組み
もっと追及タイム	総合的な学習の時間と関連づけた探究活動、課題解決型学習(PBL)など
もっとつながるタイム	学年全体や縦割りを通じた活動：SST やすごろく、間違え探し、私は誰でしょう等の活動
もっとできるタイム	タブレットを活用した個別練習、読書・振り返り活動、補充・発展学習など